

電子図書館及び電子書籍を活用した 子供読書活動推進に関する実態調査



令和2年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究



文部科学省

はじめに

文部科学省では、平成30年に第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(以下「計画」という)を策定し、様々な取組を通して、子供の読書活動の推進に努めています。

近年、スマートフォンの普及など、子供を取り巻く情報環境の大きな変化を見せており、計画においても「スマートフォンの普及や、それを活用したSNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)等コミュニケーションツールの多様化等、子供を取り巻く情報環境が大きな変化を見せており、これらは、子供の読書環境にも大きな影響を与えている可能性がある。」と記載されています。

また、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により多くの図書館が閉館となり、電子書籍を活用した読書の在り方についても関心が高まっていることなどを受け、本年度の「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」における調査テーマとして「電子図書館及び電子書籍を活用した子供読書活動に関する実態調査」を実施することとしました。

なお、平成30年度に「新しい時代における電子メディアと読書に関する調査」を実施しましたが、調査対象を「小学5年生から高校3年生相当の子供とその保護者」としておりましたので、本年度の調査対象の「教育委員会、公立図書館及び学校図書館」とは異なります。

このリーフレットにおいては、全国の自治体における電子図書館及び電子書籍を活用した子供の読書活動の実態に関するアンケート調査の結果や電子書籍をすでに導入している学校図書館や図書館の取組事例を記載しています。

今回の調査に当たり、御協力いただいた自治体や関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今回の調査が各自治体等の子供の読書活動推進に向けた一助となれば幸いです。

令和3年3月

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

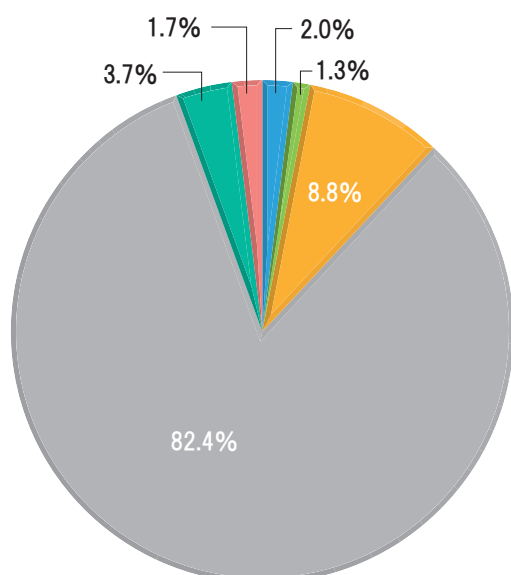
全国の自治体における電子書籍の導入・活用状況

本調査で実施した全国自治体へのアンケート結果（令和2年12月実施）では、電子書籍の導入・活用状況は、次のようになっています。

① 電子書籍等を導入している自治体

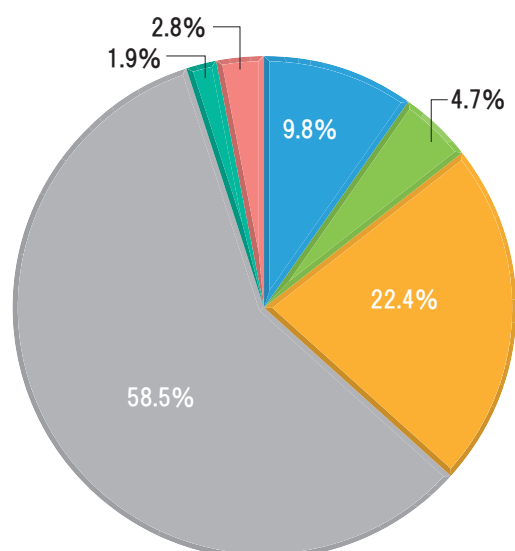
- ・ 2%の自治体が(すべてまたは一部の)公立学校に電子書籍を導入
- ・ 約1割の自治体は公立学校に電子書籍を導入予定・検討
- ・ 約1割の自治体が(すべてまたは一部の)公立図書館で電子書籍を貸出
- ・ 約3割の自治体が公立図書館で電子書籍を貸出予定・検討

公立学校の電子書籍導入率 (n=1,376)



- すべてまたは一部の公立学校で電子書籍を導入している
- 今後公立学校で電子書籍の導入を予定している
- 今後公立学校で電子書籍の導入を検討している
- 公立学校で電子書籍を導入する予定はない
- その他
- 無回答

公立図書館の電子書籍導入率 (n=1,178)



- すべてまたは一部の公立図書館で電子書籍の貸出を行っている
- 今後公立図書館で電子書籍の貸出を予定している
- 今後公立図書館で電子書籍の導入を検討している
- 公立図書館で電子書籍の貸出を行う予定はない
- その他
- 無回答

「令和2年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究」アンケート結果より

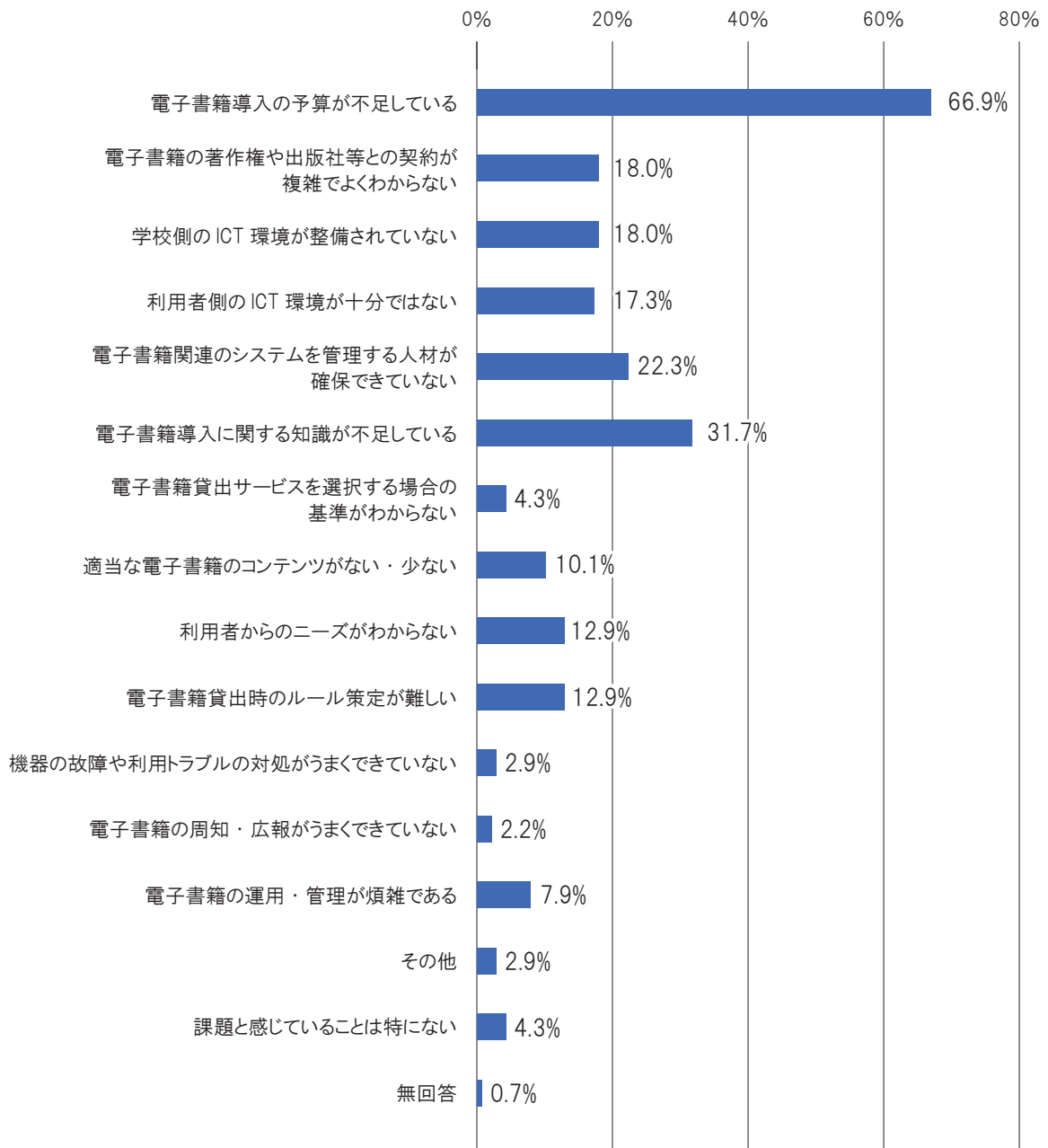
アンケート結果によると、すべてまたは一部の公立学校に電子書籍を導入している自治体は約2%です。また、1割近くの自治体において(すべてまたは一部の)公立学校での電子書籍の導入を予定・検討しています。

公立図書館に電子書籍を導入している自治体は、約1割です。また、3割近くの自治体が公立図書館で、今後電子書籍の貸出を予定・検討しているということがわかりました。

② 電子書籍導入における課題

- ・ 公立学校で電子書籍の導入を予定・検討している自治体の 66.9% が予算不足に悩んでいる
- ・ 公立図書館で電子書籍の貸出を予定・検討している自治体の 67.4% が予算不足に悩んでいる
- ・ 公立図書館で電子書籍の貸出を行っている自治体の 67.8% がコンテンツ不足に悩んでいる

電子書籍導入の課題(学校図書館)(n=139)

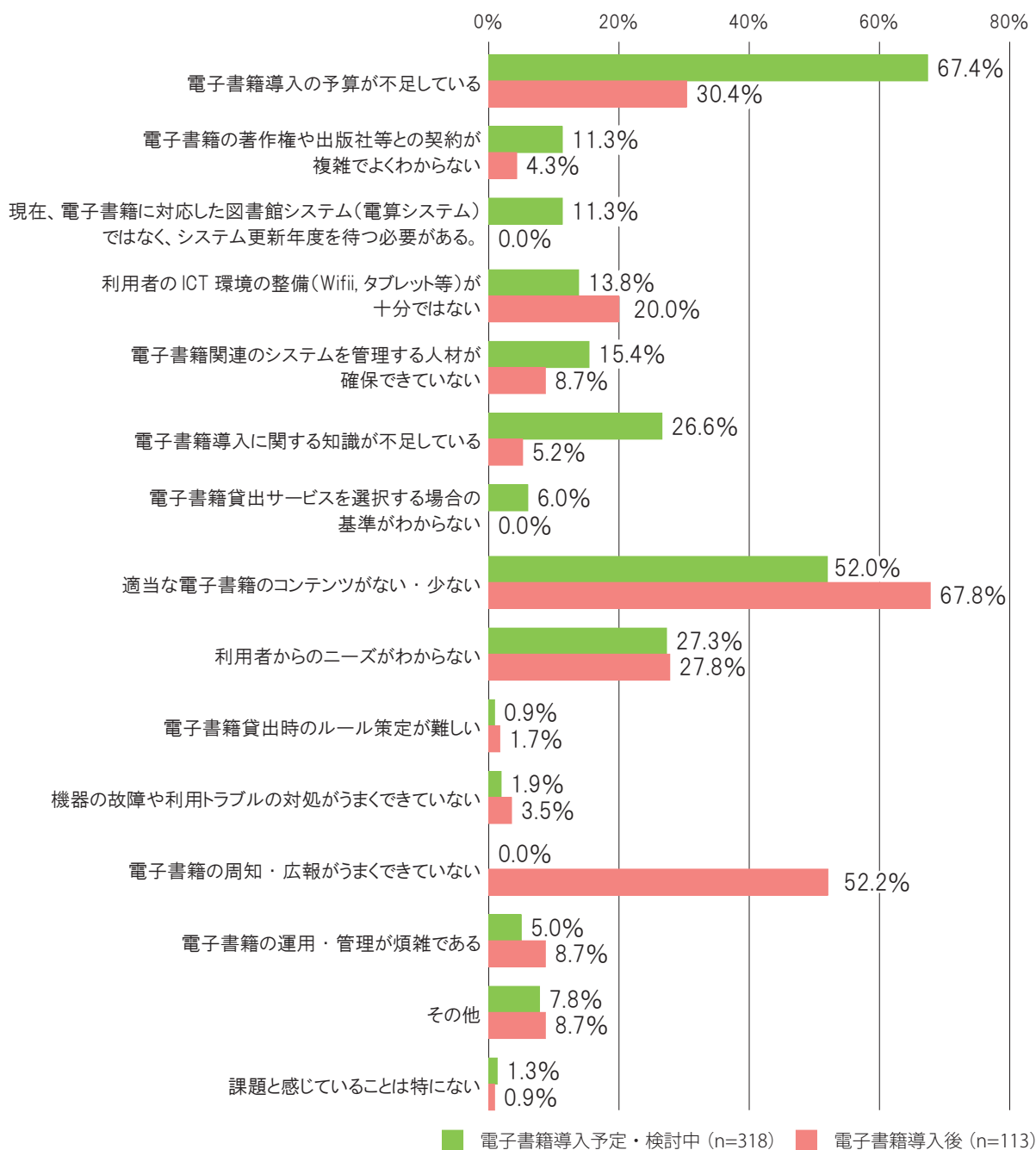


「令和2年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究」アンケート結果より

アンケート調査結果によると、公立学校で電子書籍の導入を予定・検討している自治体のうち、66.9%が「電子書籍導入の予算が不足している」と回答しています。また、31.7%の自治体が「電子書籍導入に関する知識が不足している」と回答しています。

アンケート調査結果によると、電子書籍の貸出を予定・検討している公立図書館と、すでに電子書籍の貸出を行っている公立図書館では課題が異なることがわかりました。

電子書籍の課題(公立図書館)



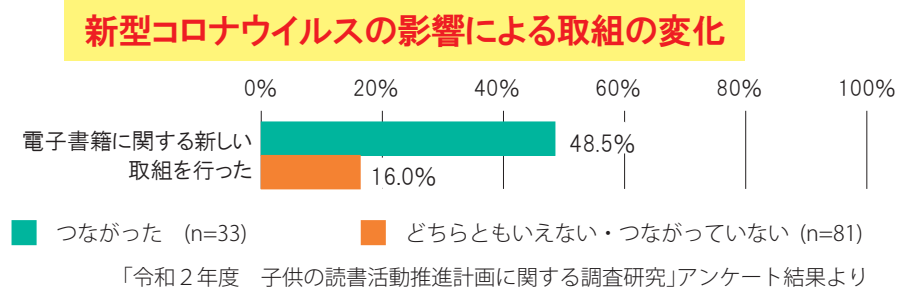
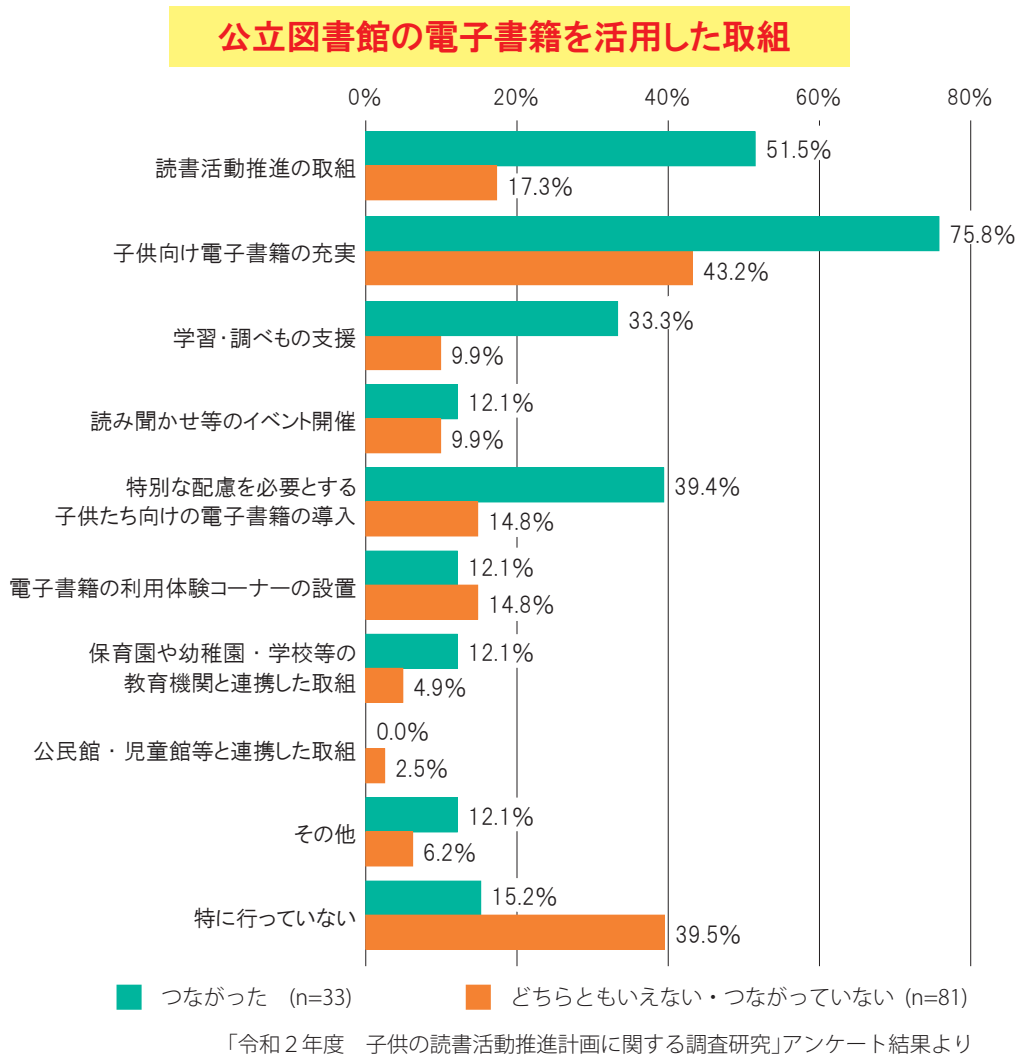
「令和2年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究」アンケート結果より

電子書籍の貸出を予定・検討している公立図書館のうち、67.4%が「電子書籍導入の予算が不足している」と回答しています。

一方、電子書籍の貸出をすでに行っている公立図書館では、67.8%が「適当な電子書籍のコンテンツがない・少ない」を課題に挙げています。また、52.2%が「電子書籍の周知・広報がうまくできていない」ことを課題としています。

③ 子供の読書活動推進につながる電子書籍の活用

それでは、電子書籍を活用し、子供の読書活動推進につなげている公立図書館は、どのような取組を行っているのでしょうか。アンケート結果からみていきましょう。



電子書籍の貸出を行っている公立図書館のうち、電子書籍の貸出が「児童・生徒の読書活動推進につながった」図書館は、そうでない図書館に比べて、電子書籍を活用した様々な取組を行っていることがわかります。また、新型コロナウイルスの影響を受けて、電子書籍に関する新たな取組を行っていることがわかりました。

このように、電子書籍を活用した取組において成果を出している公立図書館は、電子書籍を導入し、様々な取組を実施することで、子供の読書活動推進を成功させているということがわかりました。

ここからは、電子書籍を活用した具体的な取組方法や、課題への対応策など、今後取組を実施する図書館・学校・自治体の参考になる事例をご紹介します。ヒアリング事例としては、電子書籍を既に活用しており、特に子供向けの取組に力を入れている自治体・学校を選定しています。

公立学校の電子書籍を活用した取組事例

自治体名	取組名称
事例1：矢板市(栃木県)	学校電子図書館 「ともなりライブラリー(矢板市立学校電子図書館)」
事例2：熱海市(静岡県)	学校と連携した電子書籍を活用した取組
事例3：熊本市(熊本県)	コロナ禍における市内小中学校と 電子図書館の連携

私立学校の電子書籍を活用した取組

自治体名	取組名称
事例4：工学院大学附属中学・高等学校	充実したICT環境と授業における 電子書籍の積極的な活用
事例5：幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園	こども園・幼稚園におけるデジタル絵本制作と 電子図書館サービスの導入

公立図書館の電子書籍を活用した取組

自治体名	取組名称
事例6：広島県	青少年のための電子図書館サービス 「With Booksひろしま」
事例7：札幌市(北海道)	子供向け電子書籍制作ワークショップの取組
事例8：高森町(長野県)	高森ほんともWeb-Library
事例9：関市(岐阜県)	児童書の購入や 子供向けイベントによる子供の読書推進
事例10：大阪市(大阪府)	子供向けの読書イベントの開催

ともなりライブラリー（矢板市立学校電子図書館）

取組のねらい

・小中学生の家読推進^{うちどく} ・学校の授業での電子書籍利用

取組の主体

矢板市教育委員会

取組の沿革・概要

2020年10月に矢板市は、全国初の学校電子図書館「ともなりライブラリー」を開設しました。矢板市ではICT教育に力を入れており、GIGAスクール構想のタブレット端末の配付も2020年9月には完了していました。以前から課題であった、小中学生の自宅での読書量を改善する打開策として、インターネット環境があれば場所や時間を問わずに本が読める電子図書館を学校に導入しようという流れになりました。2021年3月までには、約3,000冊の電子図書館のコンテンツを整備します。



取組の具体的内容

学校との連携は、主に図書担当教諭や図書事務員の方とタッグを組んで行っています。学校電子図書館導入前には、業者にも協力してもらいながら各学校の図書担当の教諭向けの研修を行いました。学校、保護者、子供たちそれぞれに電子図書館を周知し、理解いただくまでには大変苦労しましたが、学校図書事務員と頻りに連携を図りながら取組を進めています。

運用開始から3か月ほどで、本の総貸出数は6,000件以上となっています。音が出たり動いたりする絵本は小学生に人気で、追加購入を行っています。学校によって活用の頻度には差がありますが、すべての学校で、クラス単位で時間をとって電子図書館の使い方を指導してくれています。

授業のなかでも、朝読^{あさどく}（授業前の読書時間）や国語の時間に電子書籍を活用したり、小学校低学年向けに動く絵本の読み聞かせを行ったという活用事例も聞かれています。

取組の成果と今後の展望

実施期間はまだまだ長くないですが、子供たちがよく家で電子書籍を読むようになったという声は聞かれます。インターネット環境があれば学校でも家でも本が読めること、また延滞がなく本の破損や劣化がないのも大きなメリットだと感じています。今後は、各学校の『図書だより』を電子化し、学校間で共有したり、ブックトークやビブリオバトルの動画掲載等のイベントの開催を考えています。また、朝読や国語の授業での活用だけでなく、他の教科でも調べ学習等で電子書籍を活用できるよう整備を進め、各授業で使いやすい学校電子図書館にしていきたいと思っています。

POINT

●学校の図書担当との強い連携

学校電子図書館の取組は、学校との密な連携が欠かせません。電子図書館導入前には、図書担当の教諭向けに2回、学校図書事務員向けにはさらに頻りに研修を行いました。選書についても、学校の図書担当の先生を通じて学校側の要望を聞きながら行っています。

工夫

●人気に応じた書籍の購入

電子書籍ならではの機能を搭載した、音が出たり絵が動いたりする絵本は、予約が数十件になってしまうこともあります。人気の電子書籍は追加購入するなど、子供たちのニーズに応えられるよう購入計画を進めています。

学校と連携した 電子書籍を活用した取組

取組のねらい ・中高生の不読率の改善 ・図書館にアクセスしづらい住民へのフォロー

取組の主体 熱海市立図書館

取組の沿革・概要

2018年の12月、熱海市では図書館のシステム変更に伴い、2つの柱を掲げて電子書籍を導入しました。1つめは地理的な不便から図書館に来られない方へのフォロー、2つめは現在非常に低い中高生の読書量を改善することです。中高生を主な対象として電子図書館の導入を見据えていたので、最初の選書はライトノベルや学習参考書が中心でした。



取組の具体的内容

電子書籍の貸出の他に、熱海市立図書館は市内の小中学校とも連携し、子供たちの読書推進に取り組んでいます。学校におけるICTの取組と電子図書館の有効利用を目的に、現役の教員を図書館協議会の委員に委嘱しました。その流れで、市内の小学校で音声付きの英語の絵本をタブレットからモニターに映して解説をする試験的な朝読書の取組を行いました。取組は好評で、子供たちが違和感なく電子書籍を見ていたことや、物語が英語で流れているにも関わらず内容を理解していることに驚きました。電子書籍ならではのネイティブの英語音声流れる絵本の読み聞かせは、学校の英語教育が進んでいくなかで、電子書籍を波及できるポイントとなるのではないかと考えています。

取組の成果と今後の展望

小学校での試験的な取組を経て、学校側の電子書籍への理解は進んだという実感を持っています。今後GIGAスクール構想により、タブレットを子供たちが一人一台持つことで電子書籍の可能性は大きく広がっていくと思われます。一方で、学校側がどのようなルールを設けて電子書籍を扱っていくのかが、重要なポイントになると思います。図書館が便利な場所がない中で、すべての子供の読書の環境づくりに電子書籍が大きな役割を果たしてもらえたらと思っています。

POINT

●教員との連携

熱海市立図書館は、教育委員会教職員指導室や学校との連携を深め、現場の声を聞くために現役の先生の意見を図書館協議会で伺っています。協議会委員の先生の小学校で実践した英語絵本の読み聞かせは、子供たちのポジティブな反応もあり、現場の電子書籍に対する意識を変えたと感じています。

工夫

●子供たちのリクエストに応じた選書

図書館と学校現場の方針をすり合わせるために、子供たちから電子書籍で読みたい本のリクエストを受けながら選書を進めています。

コロナ禍における市内小中学校と電子図書館の連携

取組のねらい ・若年層への読書普及 ・コロナ禍での読書推進

取組の主体 熊本市立図書館

取組の沿革・概要

2019年11月に、熊本市立図書館では電子図書館を導入しました。図書館の利用が減少している若い世代に、活字の楽しさを覚えてもらいたいというねらいがあります。電子図書館のための予算の獲得は大きな課題ですが、2020年はコロナ対策の交付金も得られ、書籍購入やシステム改修の費用に充てることができました。このような交付金・補助金は機会があれば応募するようにしています。

取組の具体的内容

2020年5月から、コロナ禍でも子供が読書を継続できるように、熊本市立小中学校の学校用図書館カードで電子図書館の利用ができるようサービスを拡充しました。既存の図書館システムを学校の図書館カードと連携させるためにはシステムの改修が必要となり、その費用の獲得がもっとも大変なことでした。学校には出来るだけ早く電子図書館を利用してもらいたいという思いがあり、学校にも協力していただいて連休前に児童、生徒及び保護者に周知してもらいました。

本の予約待ちを少しでも緩和できるように人気の本は複数購入し、児童書や絵本についても積極的に選書をおこなっています。今後は、子供に電子書籍をもっと読んでもらうための取組として、電子書籍コンテンツを紹介する配布物の準備をしています。

取組の成果と今後の展望

市立小中学校の学校用図書館カードで電子図書館の利用が可能になったことで、貸出件数は急増しました。コロナの影響で市立図書館は2020年2月末から休館しましたが、電子図書館は利用できたこともあり、同年2月と比べ、5月は約11.6倍の貸出件数となりました。主な要因は小中学生の利用によるものですが、保護者世代の40代の利用も2月の時と比べ約6倍に増えています。

令和2年度末までに、小中学校の児童・生徒にタブレット端末が1人1台配付されることから、今後は読み上げ機能のついた英語のテキストや絵本など授業に役立つコンテンツを揃え、学校図書館を補完する形で電子図書館を活用してほしいと考えています。



POINT

●学校図書館との連携

学校用図書館カードが電子図書館で使えるようになったことで、子供たちは新規登録の必要なく、自宅で電子図書館にアクセスして読書が可能になりました。従来の公共図書館の小中学生利用は全体の約10%ですが、電子図書館は約40%に上ります。最も利用が多かった層は読書離れが危惧される13～15歳の子供たちです。貸出数の多かった書籍も、子供向けの小説や絵本が上位を占めました。

工夫

●人気本の複数購入

人気のある本は複数購入することで、子供たちが読みたい本を少しでも早く読めるようにしています。電子書籍は延滞処理の必要もないため、通常の書籍よりも早く順番が回ってきやすいというメリットもあります。